南牧村花弁生産組合花情報(平成 27 年 9 月)

「なんもくの花」

群馬県の南西部に位置する南牧村では、平均年齢 70 歳以上の 15 名が 50 種類を超える宿根草や花木類などの切り花を栽培し、「なんもくの花」として首都圏へ出荷しています。(写真は 9 月 13 日に開催された農業祭の共進会の様子です)

『過去最高』

9 月 13 日に開催された前期農業祭には毎年「なんもくの花」が多数出品されます。今年は過去最高の 64 点もの出品があり、色とりどりの「なんもくの花」が会場を埋め尽くしました。

(栽培が増加中のオランダセダムも多数出品)→

『出荷ピーク!』

9 月は「なんもくの花」の出荷ピークです。今シーズンも 9 月に入り、クジャクアスターやワレモコウ、キクなど多くの花の出荷を迎えました。特に 9 月 13 日からの 1 週間は 5 万本を超える「なんもくの花」が首都圏に出荷されました。

(台車に満載「なんもくの花」)→

『秋の実もの』

「なんもくの花」の草花類の出荷は 9 月でほぼ終了します。これからの季節は実付きの枝物(通称 実もの)の出荷が始まります。ガマズミ(ヨツズミ)、アロニア、ウメモドキ、そして年末のナンテンへと続きます。

(9 月下旬が出荷ピークのガマズミ)→